

**平成29年度後期 京都女子大学『学生アンケートによる優秀授業賞』
「授業紹介シート」**

| | |
|---------|--------------------------------|
| 受賞対象授業名 | 教養科目 A (芸術と表現 1) |
| 曜日・講時 | 木曜日 4 講時開講 |
| 講義コード | 1942 |
| 授業区分 | 授業区分①：受講者数が 25 名以上～49 名以下の開講授業 |
| 担当者名 | 深見 友紀子 |
| 所属学部・学科 | 発達教育学部児童学科 |

今回受賞対象となられた授業について、その取り組みや工夫などについて、ご紹介ください。

この授業は、映画やテレビ番組、担当者が企画・実践したイベント映像などを手がかりとして、音楽のすばらしさや音楽教育の意義、楽器のおもしろさなどに触れながら、子どもと音楽との望ましい関係性、音楽の教育的な可能性を探ることを目標にしています。

全学部対象の科目なので、音楽に関する知識が乏しい学生も大勢履修します。そのため、たとえば、小学校のヴァイオリン教師と子どもたちとの触れ合いを描いた映画「ミュージック・オブ・ハート」(主演 メリル・ストリープ)を取り上げる時は、働く女性の葛藤、正規雇用と非正規雇用、黒人と白人、貧富の差による教育格差、親子関係、中年男女の結婚観といった、この映画が提起する音楽教育以外の話題に焦点をあて、履修者が自分自身の家庭や将来のキャリアなどと関連づけて考察できるようにしました。また、映像を観るだけだと教室は映画館になってしまうので、どのようなコメントをどういうタイミングで挟むかに工夫をこらし、授業を構成しました。

この授業は「映画が観れる！」という前評判によって履修希望者が多く、ここ数年、100名以上のクラスを2つ開講してきましたが、2017年度後期は非常勤の先生が協力してくださった結果、履修者数は1つのクラスが100名以上、もう1つが45名程度でした。優秀授業賞をいただいたのは、後者のクラス。履修者が多い場合、教室の後部席で私語が目立ち、どうしても教室の前半分に座っている学生たちに話しかけてしまいがちなのですが、この授業は私にとって「ほど良い人数」で、教室にも「ほど良い一体感」がありました。

授業改善の工夫に関しては、毎回、『京女ポータル』のレポート機能を使って、授業の感想コメントの提出を課しました。今回は提出させただけでしたが、書き込んだコメントを履修者それぞれが共有し、他者の意見も参考にして再度レポートにまとめるといったことができるならば、より深い学びにつながるでしょう。

幼児教育棟 U002 教室には、教室前面にある大きなスクリーンの他に、4台の大型モニターが設置されています。映画や音楽の再生に適したスピーカーもあります。この授業で映画に感動して思わず泣いてしまった学生や、YouTube のコンサート映像を視聴して鳥肌が立ったという学生がいました。

授業の成功には授業構成に関する教師の工夫や、優れた教材、LMS の活用なども大きなファクターになりますが、教室環境も重要です。条件の良い教室で授業ができたことに感謝申し上げます。